ー常に介護が必要ですー

【本人の様子】

入浴を嫌がったり、トイレが適切にできなかったり、常に介護が必要になります。また、次第に話す言葉が少なくなり、歩くことや座ることも困難になってきます。

本人・家族向けアドバイス

①サービスを利用して負担軽減を

家族の介護負担が増えてきます。相談しながら医療や介護サービスを上手に使いましょう。

通所介護などの通うサービスや短期入所生活介護などの泊まるサービスの利用で介護者自身の休息を図るのもよいでしょう。

通う場所・介護の手助け P.22

- **通所介護・デイケア・認知症対応型通所介護**
- **小規模多機能型居宅介護**
- **短期入所生活介護**

ときに本人が大声で怒鳴ったり、介護を嫌がることがあるかもしれません。これらは、本人の不安や、体調の変化、慣れない環境、周囲の接し方も影響すると考えられています。

かかりつけ医などに対応を相談するとともに、介護の専門職や経験者に尋ねてみるのもよいでしょう。

相談する

- **介護支援専門員（ケアマネジャー）** P.20
- **認知症介護家族会** P.24
- **家族介護交流事業** P.24
- **認知症カフェ** P.24

②体調の変化に気をつける

脱水や便秘、発熱などの身体の不調が、認知症の症状に影響することもあります。認知症の人は体調の変化を自分から訴えることが難しいことがあるので、変化があれば早めにかかりつけ医に相談しましょう。

受診する・療養する P.21-22

- **かかりつけ医**
- **訪問看護・リハビリテーション**

③コミュニケーションの工夫を

家族は言葉以外のコミュニケーション(スキンシップや表情・しぐさから気持ちをくみ取るなど)を心がけましょう。

心地よい気持ちや温かい気持ちは感じることができます。手を握る、背中をさするなどは認知症の人は安心できます。

④看取りに備えて相談を

病気により寝たきりとなるなど、状態が変わっていきます。医療や介護の専門職と、看取りに備えた相談をしておきましょう。

病状や見通しなどについてかかりつけ医などから十分説明を受けましょう。

【例】Dさん（女性）90歳　長男夫妻と三人暮らし

Dさんは認知症の進行とともに、少しずつ足腰も弱くなり家にいるときは、ベッドの上で過ごすことが多くなってきました。食事などの介護は長男の妻が中心に行っており、入浴は介護保険のサービスを利用しています。

しかし最近、食事を全部食べられないことや、飲み込もうとしてむせることが増えました。食事がのどに詰まってしまうのではと、長男の妻は心配でした。また、おむつ交換のとき皮膚が赤くなり床ずれができているのを見つけました。

ここに相談しました。このサービスを利用しました。

●かかりつけ歯科医（訪問歯科診療）
●薬局

食事などの飲み込みを適切にできないと「誤嚥性肺炎」に気をつけなければならないと聞きました。

誤嚥性肺炎を防ぐためには、口腔内を清潔にしたり口の中をマッサージするとよいと聞き、かかりつけの歯科医に方法を教わることにしました。

また、薬も飲みこみにくいため、薬局とかかりつけ医に相談し、飲みやすい薬に替えてもらいました。

誤嚥性肺炎とは

食べ物や飲み物を飲みこむ動作を「嚥下(えんげ)」、この動作が正しく働かず、誤って気管や気管支内に入ることを「誤嚥(ごえん)」と言います。

高齢者の肺炎の多くが誤嚥に関係しており、死に至ることもあります。

症状に気づきにくく、また繰り返してしまうため、重症化する前の早めの相談・治療が必要です。

●訪問看護

床ずれの処置や観察のために、訪問看護も利用することにしました。体調管理や清拭・口腔ケアなど身体を清潔に保つ支援を行っています。

看護師と一緒に足浴すると、Dさんはとても気持ちよさそうな表情になります。

●介護支援専門員（ケアマネジャー）
●福祉用具貸与

ケアマネジャーからは、床ずれがひどくならないよう、ベッドに敷いて床ずれを予防するマットの使用を勧められ、借りることにしました。

様々な支援を利用しながら、長男夫妻は、このままDさんをなんとか自宅で看取りたいと考えています。Dさんの体調が急に悪くなった場合の相談などもはじめています。

介護サービス情報は、市窓口(介護保険課)、または「豊田市介護保険・高齢者福祉ガイドブック」をご覧ください。